

発掘調査報告

平成23年12月から平成24年2月にかけて、三美地区で畑地帯総合整備事業に伴う、赤岩遺跡の発掘調査が行われ、その成果がまとまりました。



▲調査区全景（東から。空中写真）



縄文時代の遺構・遺物

竪穴住居1軒、おとし穴1基などが確認されています。

竪穴住居跡は約7千年前のもの
 で、確認できただけでも軸長9.2メー
 トル以上、幅5.7〜6.5メートルという
 大型のものです。

また、おとし穴は狩りに使われたもので、約9千年前のものです。

併せて土器（深鉢）・石器（やじり、石斧^{せきふ}、石皿など）が出土しています。これらは約1万年前から約3千年前にかけてのもので、この地域で古くから生活が営まれていたことがわかります。

弥生時代の遺構・遺物

※土坑どこうが確認されていて、お墓の可能性が考えられます。土器（つぼ、かめなど）が出土しています。

※土坑：地中に掘られた穴。目的は様々。



◀ 石斧



やじり▶



▲縄文時代の住居跡

古墳・奈良時代の遺構・遺物

古墳1基などが確認されました。古墳は直径16・5mの円墳で、凝灰岩の横穴式石室と推測されますが、石材や副葬品のほとんどは後世に持ち去られていました。死者を祭る儀式に用いた須恵器・土師器（つぼ、碗、杯、ふた、コップ形など）や、副葬品の鉄製品（やじり、刀子など）が出土しています。

また土坑も3基確認され、うち1基は断面が台形をしていて、墓穴と考えられる「挟り込み土坑」でした。



▲古墳（真上から。空中写真）



▲須恵器（つぼ）▶



▲須恵器（ふた、高台付杯）

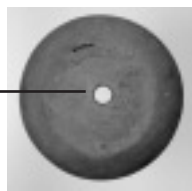


▲挟り込み土坑

平安時代の遺構・遺物

竪穴住居跡3軒が確認されました。うち1軒には床下に貯蔵用と考えられる「床下土坑」が確認されました。

様々な遺物が出土していて、詳しくは判読できませんが墨書土器2点、へうで「伊」と刻まれた※紡錘車などが出土しました。



▶墨書土器



▲紡錘車と刻書「伊」

※紡錘車…糸によりをかけるための道具

鎌倉・室町時代の遺構・遺物

溝や土坑などが確認されましたが、性格はよくわかりません。銅製品や石臼（茶臼）などが出土しました。

まとめ

これまで常陸大宮市では、古墳は主に久慈川流域に多く確認されました。

しかし、今回の調査によって那珂川流域に古墳が発見されたことは、この地域にも周辺を治めていた豪族がいたという証拠であり、常陸大宮市の従来の歴史像を変える大きな成果といえるでしょう。

また古墳の石室構造、古墳時代の「挟り込み土坑」、平安時代の「床下土坑」については、茨城県では発見例が少なく、栃木県においては数多く確認されています。従って古代の三美地区周辺は、栃木と文化的に近い関係にあったものと考えられ、その媒体として那珂川の果たす役割は大きかったことがうかがえます。

最後に

今回の発掘調査では、たくさんの方に協力していただきました。これらの資料は、私たちのふるさと常陸大宮市の、歴史や文化を知る上で貴重な郷土資料となります。

ふるさとの歴史と文化を知り、郷土愛を育むためにも、今後とも埋蔵文化財行政にご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ

生涯学習課 生涯学習グループ
☎ 52-1111 内線344